

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 日本の上空には次々と強い寒気が流れ込み、9日頃にかけて冬型の気圧配置が強弱を繰り返しながら続く。
- 10日から11日にかけて、高気圧が東シナ海から日本の南へ移動して冬型の気圧配置は次第に緩む。11日は、朝鮮半島付近で気圧の谷が顕在化する。
- 12日は、低気圧がオホーツク海へ進み、気圧の谷が日本付近を東進する。

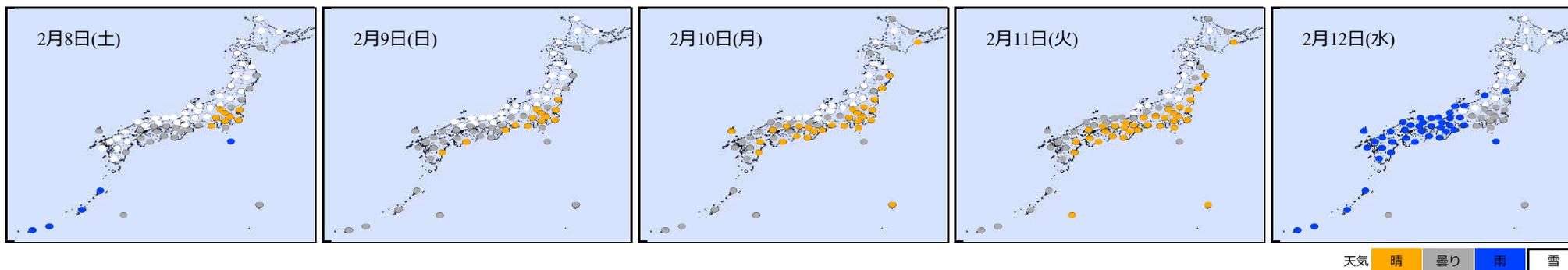
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 9日頃にかけて日本の上空に断続的に強い寒気が流れ込み冬型の気圧配置が続くため、北日本から西日本にかけての日本海側を中心に荒れた天気や大雪となり、大荒れや大しけ、警報級の大雪となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

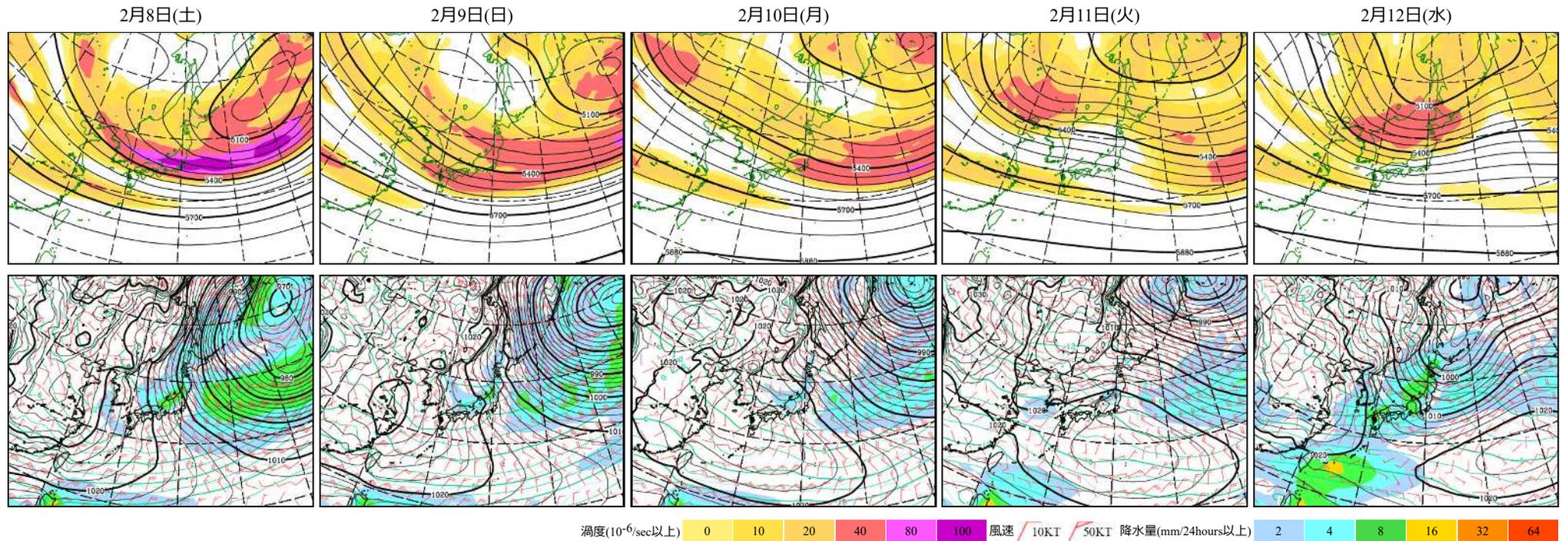
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

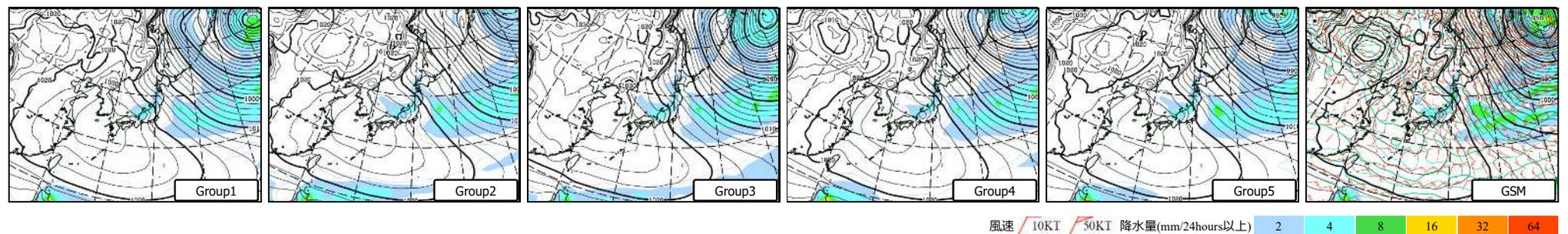


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、曇りや晴れの日が多いが、8日は雪または雨の降る所があり、12日は雨または雪の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、雨の降る日がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月10日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、11日頃に日本付近へ進むリッジが強まり、寒気が弱くなったことに対応して、日本海側の降水確率が小さくなった。また、12日頃に日本海へ進むトラフが深くなり、日本付近の気圧の谷が明瞭となった。
- 各モデルとも、9日頃までは強い冬型の気圧配置が続き、10日は高気圧が東シナ海へ移動して、冬型の気圧配置は西から緩む予想はおおむね揃っている。
- スプレッドは昨日資料より小さくなったが、期間の終わりは日本付近のトラフの深さにばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。